

訪ねて

ガッテン!!

出雲の歴史



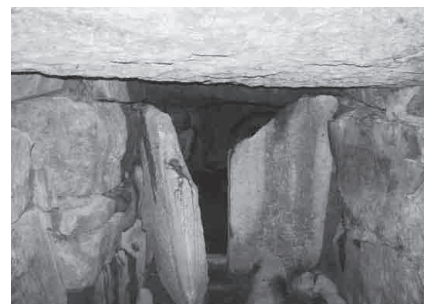
妙蓮寺山古墳(みょうれんじやまこふん)【県指定史跡 昭和39年(1964)指定】

妙蓮寺山古墳は、神戸川の左岸、出雲市下古志町の低丘陵上に位置します。古墳時代後期(6世紀中頃～後半)に造られた、全長約49mの均整のとれた前方後円墳です。

後円部に横穴式石室が造られています。墳丘からは円筒埴輪が出土しており、古墳が築造された当時は前方部及び後円部の上面に立てられていたと考えられています。

●古墳のポイント

- ①神戸川を横目に、大きな集落を眼下に見下ろす非常に良い場所に造られています。
- ②入口は2枚の扉石を観音開きになるように据えた、珍しい構造の横穴式石室です。
- ③石室内には、凝灰岩をくり抜いて作られた横口式の家形石棺が1基置かれています。
- ④今市大念寺古墳と類似する点が多く、ほぼ同じ時期(約1400年前)に築造された有力な首長の墓と考えられています。
- ⑤出土品の一部を出雲弥生の森博物館で展示しています。



入口の2枚の扉石

出雲弥生の森博物館 企画展・講座のご案内

●企画展「古代出雲のものづくり ～織る・塗る・熔かす・焼く～」

◆開催期間 3/17(土)～5/14(月) 9時～17時(入館16時30分まで)

◆休館日(毎週火曜休館/祝日の場合は翌日) ◆観覧料300円(高校生以下無料)

今年は『古事記』編さんから1300年という節目の年になります。そこで春の企画展は、『古事記』編さんの奈良時代を中心に当時の出雲の人々の「ものづくり」に注目します。

◆おもな展示品

- ・青木遺跡(出雲市西林木町)出土の紡織(ぼうしょく)資料
- ・高機(たかはた)(県指定文化財)など機織りに関する民俗資料
- ・ガラス塊(かい)(国重要文化財)(玉作湯(たまつくりゆ)神社所蔵)

●ギャラリー展示「記された安政の南海地震 ～幕末の出雲で何が起きたか～」

◆開催期間 2/15(水)～5/14(月)

昨年6月に開催した「地震展」に続き、1854年に起きた安政の南海地震に関する展示です。

この地震で出雲でも多くの被害がありました。当時の古文書を中心に、出雲の人々の地震に対する行動や思いに注目します。

観覧無料

▼文化財保護審議会委員講座

①「出雲大社の造営運営と本願」

3/11(日)14時～16時

【講師】山崎裕一 委員

②「出雲市内の古文書(1)」

3/25(日)14時～16時

【講師】藤岡大拙 委員

【受講料】各3000円

▼春の企画展 関連講座

①「ワークショップ 古代の機織りを体験しよう」

3/18(日)13時～16時

【講師】東村純子 氏

(国立民族学博物館)

②「古代における地方のものづくり」

4/14(土)14時～16時

【講師】古尾谷知浩 氏

(名古屋大学大学院文学研究科准教授)

③「古代における都のものづくり」

5/6(日)14時～16時

【講師】柴原永遠男 氏

(大阪市立大学大学院 文学研究科特任教授)

【受講料】無料

☆申し込み方法

出雲弥生の森博物館へ、

電話 (25)1841 または

FAX (21)6617

で申し込む。

※定員になり次第締め切ります。

※定員になり次第締め切ります。

古事記編纂^{さん}1300年を迎えて

「出雲の魅力再発見・一人ひとりがおもてなし」

市では、古事記編纂1300年や「神話博しまね」、平成25年の出雲大社「平成の大遷宮」を契機に、出雲の魅力を再発見し、「おもてなし」の心を持った観光振興に取り組んでいます。皆さんも、一人ひとりができる「おもてなし」について、ぜひ、一緒に考えていきましょう。

「出雲」の魅力を再発見しよう

今年、「古事記」が編纂されて1300年目の年。

「古事記」は、日本最古の歴史書であり、全3巻の内1巻には神話が記され、その中のおおよそ3分の1は「出雲神話」が語られています。712年に中央政府が編纂した歴史書にこれほど多くの出雲神話が記されていることは、荒神谷遺跡から銅剣が、加茂岩倉遺跡から銅鐸が、いずれも大量に出土したこともあわせ、強大な古代出雲の存在をほうふつとさせ、ロマンを感じずにはいられません。神話には、神の誕生、国の始まりなど神々の物語が

国譲りの舞台稲佐の浜

壮大なスケールで描かれるとともに、古代の人々の営みが織り込まれてもおり、日本の原風景を感じることが出来ます。出雲に住む私たちは、素晴らしい歴史や文化という財産をもっています。それだけでなく、神話に描かれた日本の原風景の世界が、現代に脈々と受け継がれ、なにげない暮らしの中に息づき、出雲をつくりあげています。これは出雲だけがもつ魅力であり、多くの人を魅了してやまないものです。住んでいる私たちには当たり前で、もしかすると見逃している魅力かもしれません。

古事記編纂1300年の今年、出雲とは何か、私たちが誇れるもの、大切にしたいものは何かを見つめ直し、出雲の魅力を再発見してみませんか。

「私たち一人ひとりが、おもてなしの主役」

古事記編纂1300年を迎え、さまざまな雑誌で「古事記」や「神話」の特集が組まれるなど、全国的に関心が高まっており、神話の舞台「出雲」に注目が集まっています。

今年7月21日から11月11日までの114日間、出雲大社周辺を主会場として「神話博しまね」が開催されます。さらに平成25年5月には、60年に一度の出雲大社「平成の大遷宮」を控えており、今後出雲は、ますます全国からの注目を集め、多くのお客様をお迎えすることとなります。

これは本当の出雲のよさを知っていただく絶好の機会です。私たちが、出雲への愛着と誇りをもち、自信をもってお客様をお迎えすること、そして、出雲に住む私たちがだからこそ知る出雲の魅力を余すところなく



昨年、市内で多数開講された神話や歴史を学ぶ講座。多くの受講生があり関心が高まっています。今後、さまざまな講演会・講座を開催していきます。写真は昨年10月に開催した市民講座「さあ出雲！出雲の魅力発見隊」の様子です。

伝えることで、出雲の旅を満足していただけるのではないのでしょうか。

そのためには、出雲を訪れる方々を、私たち一人ひとりが「おもてなしの心」を持つてお迎えすることが必要です。皆さん一人ひとりができることを考え、本当の出雲のよさを知っていただけるよう、一緒に取り組んでいきましょう。

今後、神話や市民の皆さんが取り組むおもてなし・まちづくりを紹介していきます。

また、「神話博しまね」の情報もお伝えしていきます。

おたずね：観光交流推進課
☎21-6588